

磐城の民聲

発行日、十一月廿一日(毎月三回)
 編輯兼發行印刷人 北川 秀雄
 發行所 福島縣平町南町七十八番地
 廣告料 五號十二字詰 一回 五十錢
 一部十號 一ヶ月二十錢 送料五厘

平 町
 釜屋商店
 電話 九九番

**眞に町財政を考慮せば
 第四小學校新築の實現を期せ!!
 一時の彌縫策は
 町將來に
 一大禍根を残さん**

第三小學校増築反對第四小學校新築實現運動は去る十六日催された關係區南町鍛冶町、材木町の區民大會と同時に發表されし聲明書によつて町民に多大の感銘を與へつゝあるが今その理由とする所を詳述せんに：一、昭和八年度に於ける各學校の學級編成は
 イ、第一校は教室二十四に對し二十六學級
 ロ、第二校は教室二十四に對し二十八學級
 ハ、第三校は教室十二に對し十五學級
 にして何れも特別教室使用を以て補充する以外に道なき状態である
 尙昭和八年度は前記
 九年度 六十九學級
 十年度 七十二
 十一年度 七十四
 十二年度 七十六
 八十の豫定數である

一、然るに町當局は昭和九年度よりの對策として第三小學校に九學級増築せんとしつゝあるも前掲學級増加率よりして十一年度に於て再度狹隘を告ぐることになる
 一、假りに今回第二小學校を増築するとしても昭和十一年より第四小學校の新築に着手せねばならぬことが明なる以上第四校の設計たる二十四學級十萬八千圓を差當りの必要限度十八學級九萬一千圓を以て新築し第三校増築に解決を見たのである
 見合によつて生ずる一萬以上を綜合したる時第三小學校の増築は一時の彌縫策差程の問題なく町財政上であるのみならず、先きの議決を無視し、徒らに町財政の増進を阻害するに過ぎない
 一、町債償還年額が七萬六千圓に上ることは事實であるが現在の水道收入七萬三千圓の内水道課經常第四小學校を新築すべしと費を控除したる四萬六千圓を前記繰入れれば租税と

しての町民負擔は二萬五千圓に過ぎず従つて町當局の所謂町民負擔の過重町財政難は聊か誇大に過ぎ徒に町民を悲觀に導くものである
 一、而も昭和三年度町會に於て第三小學校の建設問題が論議され東部南部に各候補地を朴し其の實現を期して譲らざりし時町會は自治体の紛糾を憂慮し慎重協議の結果七月全會一致を以て
 一、第三小學校は昭和五年度新學期迄に十二學級の校舍を正月町に建設すること

**再度反省を促す
 關彰平支店へ**
 百の計畫一の實行に若かず
 火に危険なき油斷じてなし

本紙前々號に於て關彰平支店の對しその營業用油の保以て再度反省を促すべく筆を執りて不完成延いては硯を持つて迫るを甚だ遺憾とすれど、町民極度の不安に怖ゆるを慮り嚴重なる反省を促すと商店に於ては、其に適當なる防備方法構せ「來るべき機會に於て完全なことを平三萬町民にはなる油倉庫を設けるの計畫つて希望せしことは讀者各あり」位の記憶に未だ新なる所「店頭に備ふる油は危険な位に以來滿二ヶ月静かにその成行を監視し居たりしと云ふかその取りたる行動は如暴言これに過ぎたるものありや」先づ一によつて言

僅かに横町通りの空家に無はんに「百千の計畫を立てたるに過ぎず、而も却つても結局腹の中の肥料倉の中に板一枚圍ひの一町日本通りの店補次の個所には以前にも増して疊々たる充滿せる油の價値なく萬々一計畫中に實行に移らざるに先だ從來石城郡内に於ける鐵機漸く具体案の成立を見去る有する組合組織の必要を叫びし磐城鐵工機械同業組合は、二に於て筆者生を此を得ざる故に有名無實に河田梅吉氏滿場一館推選されたりしが此の程慎重な決を見た、因に河田氏は白銀町に工場を有し斯業界の

本社は舊臘十一月半突如本上に於ける識別及び集會士を襲ひたる颯風により郡等に兎角不便を來しつゝ、あつたに惨出せる水難犠牲者を見聞是れが緩和と方法と考慰族遺問の一端として音して此の程白色エナメル塗樂舞踊大會を開き大方各位杖百本を作成内三十本を訓の理解ある應援により應分官院に四十五本を平町首者の慰問金を贈呈し江名、豊組合に二十五本を平町人事相間、四倉、小名各地より懇談所に寄附舊正月一日より篤なる謝意を表されしが此一齊に使用せるが從來の不程社長齋藤岳洞氏は平町便も一掃され近來の美譽と在任の首者不具者の使用なして推賞されつゝある。
 寸杖の大小長端一定せず

磐城鐵工機械同業組合 確立
 去る一月十一日紀元節の佳辰を卜して
 滿場一致組合長に河田梅吉氏推選さる

從來石城郡内に於ける鐵機漸く具体案の成立を見去る有する組合組織の必要を叫びし磐城鐵工機械同業組合は、二に於て筆者生を此を得ざる故に有名無實に河田梅吉氏滿場一館推選されたりしが此の程慎重な決を見た、因に河田氏は白銀町に工場を有し斯業界の

平町在住育者不具者に
白色エナメル塗杖寄附
 本社々長齋藤岳洞氏の美譽

本社は舊臘十一月半突如本上に於ける識別及び集會士を襲ひたる颯風により郡等に兎角不便を來しつゝ、あつたに惨出せる水難犠牲者を見聞是れが緩和と方法と考慰族遺問の一端として音して此の程白色エナメル塗樂舞踊大會を開き大方各位杖百本を作成内三十本を訓の理解ある應援により應分官院に四十五本を平町首者の慰問金を贈呈し江名、豊組合に二十五本を平町人事相間、四倉、小名各地より懇談所に寄附舊正月一日より篤なる謝意を表されしが此一齊に使用せるが從來の不程社長齋藤岳洞氏は平町便も一掃され近來の美譽と在任の首者不具者の使用なして推賞されつゝある。
 寸杖の大小長端一定せず

借權取立 貸金手形 賣掛地代
 其他請求金一切
 買受又ハ金融可
 ◆費用負擔成功報酬◆
 平町南町七十八番地
 法律相 **榮商事**
 談無料

小名濱二業保健組合
 大まとい
 組合長 赤津信吉
 相馬屋
 副組合長 木幡 直
 會計 鈴木三之助
 評議員 相澤寅松
 柳澤今朝吉
 大澤 奇
 衛生組長
 上遠野藤彌
 衛生係
 小松 力
 馬上岩吉
 上遠野 豊
 曾我留次郎
 坂本庄藏

